

### (3) オリンピック・パラリンピック東京大会における 木材利用について

#### 【木材利用が見込まれる施設】

##### (1) 建築資材

###### ① 新国立競技場(隈・梓・大成 J V)

- ・ 大屋根の構造部材及び軒庇にスギ・カラマツを 1,800m<sup>3</sup> 使用する提案内容。資材としての木材調達について、商社系 4 社への発注予定との情報あるも、機密扱いで産地や量などについては非開示。

###### ② 有明アリーナ(竹中工務店ほか)

- ・ 3,000m<sup>3</sup> 程度の木材使用量との情報。従来から竹中工務店は木質系の大規模建築や木質内装化等の実績を有することから、木材を多用した施設となるものと期待。

###### ③ 有明体操競技場(清水建設)

- ・ 相当量の木材を使用したスパン 80m 超の大梁を要する大スパン空間を整備予定。遅れていた組織委員会との契約は完了。

###### ④ 選手村(住宅棟以外:ビレッジプラザ)(日建設計)

- ・ 組織委員会との契約がようやく成立。当初、本年 1 月中にも企画提案の公募が開始されるとの情報もあったが、7 月 24 日に公募スタート。

- ⑤ その他恒久施設や仮設施設をどのように建築するかの情報については、断片的であるが、複数の県との情報交換等により継続する方針。

## (2) 備品等

- ・ 各種施設のテーブル、イス、ベンチ等については、限られたオリパラ予算内で購入又はリースを行うことが見込まれているが、具体的な検討はまだ行われていない模様。全木連としても林野庁と連携協力して木製品の調達を働きかけていく考え。

## (3) その他

- ・ 各種発注において、木材については、認証材等の指定がなされるものと見込まれるが、認証材の受注に当たっては、

① FM認証を受けた森林があること

② C o C 認証を受けた木材流通業者及び木材加工業者でなければ

①で生産された素材であっても「認証材」製品にならないこと

に十分ご留意いただき、各都道府県における認証材の供給力の確保・向上に努めていただきたい。

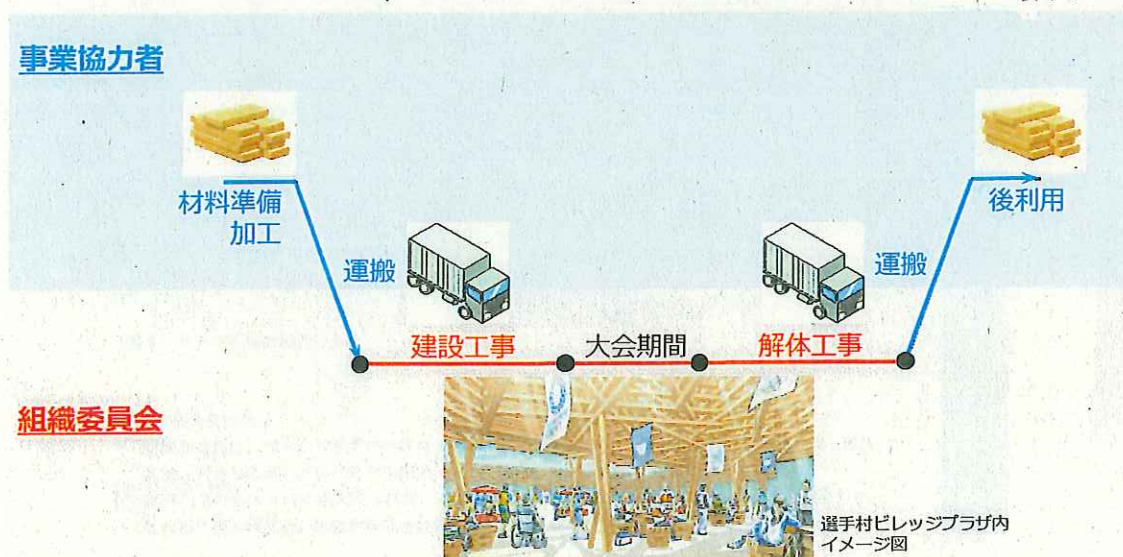
※ 引き続き、各地域からの要請に基づき、組織委員会や施設整備を請け負う企業等への要望活動の仲介役を実施する方針。

【ビレッジプラザ関係】



5 事業スケジュール (予定)

2016年10月～2017年9月	基本設計
2017年7月～9月	公募実施 事業協力者の決定
2017年11月～2018年9月	実施設計
2019年6月頃まで	木材の調達
2019年4月～2019年12月	ビレッジプラザの本体工事
2020年1月～6月	ビレッジプラザの内装工事等
2020年7月～9月	選手村の運営期間
2020年10月～12月	ビレッジプラザの解体



[図4 スキーム概念図]

表1 各棟の概要

棟名	面積	募集する材種・数量（最大予定数量）
A1	約 300 m <sup>2</sup>	柱・梁材（構造用集成材）：材積換算約 50 m <sup>3</sup> 二次部材（外壁・屋根下地材）（構造用製材）：材積換算約 45 m <sup>3</sup> 二次部材（大引・根太・敷床）（構造用製材）：材積換算約 20 m <sup>3</sup> （床材に構造用合板を提供する場合） 床材（CLTまたは構造用合板）：面積換算約 430 m <sup>2</sup>
B1	約 315 m <sup>2</sup>	柱・梁材（構造用製材）：材積換算約 65 m <sup>3</sup> 二次部材（外壁・屋根下地材）（構造用製材）：材積換算約 50 m <sup>3</sup> 二次部材（大引・根太・敷床）（構造用製材）：材積換算約 25 m <sup>3</sup> （床材に構造用合板を提供する場合） 床材（CLTまたは構造用合板）：面積換算約 490 m <sup>2</sup> その他（構造用合板）：面積換算約 450 m <sup>2</sup>
B2	約 190 m <sup>2</sup>	柱・梁材（構造用製材）：材積換算約 40 m <sup>3</sup> 二次部材（外壁・屋根下地材）（構造用製材）：材積換算約 30 m <sup>3</sup> 二次部材（大引・根太・敷床）（構造用製材）：材積換算約 15 m <sup>3</sup> （床材に構造用合板を提供する場合） 床材（CLTまたは構造用合板）：面積換算約 320 m <sup>2</sup> その他（構造用合板）：面積換算約 300 m <sup>2</sup>
B3	約 90 m <sup>2</sup>	柱・梁材（構造用製材）：材積換算約 20 m <sup>3</sup> 二次部材（外壁・屋根下地材）（構造用製材）：材積換算約 15 m <sup>3</sup> 二次部材（大引・根太・敷床）（構造用製材）：材積換算約 10 m <sup>3</sup> （床材に構造用合板を提供する場合） 床材（CLTまたは構造用合板）：面積換算約 160 m <sup>2</sup> その他（構造用合板）：面積換算約 150 m <sup>2</sup>
D2	約 105 m <sup>2</sup>	柱・梁材（構造用製材）：材積換算約 25 m <sup>3</sup> 二次部材（外壁・屋根下地材）（構造用製材）：材積換算約 20 m <sup>3</sup> 二次部材（大引・根太・敷床）（構造用製材）：材積換算約 10 m <sup>3</sup> （床材に構造用合板を提供する場合） 床材（CLTまたは構造用合板）：面積換算約 210 m <sup>2</sup> その他（構造用合板）：面積換算約 200 m <sup>2</sup>

※構造用合板の提供については、今回の公募の提案には含めない。今後、事業協力者との個別協議により提供を依頼する場合がある。

(3) 部材単位

- ・ 部材単位については、表2に記載の構造用製材及びCLTの2種類について募集する。構造用製材については材積に換算して10 m<sup>3</sup>を1口とし、CLTは面積に換算して200 m<sup>2</sup>を1口として事業協力者を募集する。なお、各部材の寸法・仕様・強度等の詳細については、事業協力者と個別に協議して決定する。
- ・ 部材単位の募集枠は、全体の事業協力者数45者程度から棟単位の募集枠(最大5者)を除いた40者程度を予定する。なお、構造用製材について35者程度、CLTについては5者程度を募集する。
- ・ 応募する部材に順位を設定することで、両方の部材に重複して応募することができる。なお、希望順位の上位の部材を優先して扱い、当該部材の提供者とならなかった場合に限り、もう一方の応募を有効とする。
- ・ 構造用合板の提供については、今回の公募の提案には含めない。今後、事業協力者との個別協議により提供を依頼する場合がある。
- ・ 今後、基本設計、実施設計の深度化による計画変更に伴い、提供木材の仕様・数量等に変更が生じる可能性がある。その際には、別途協議のうえ、上記に定める1口あたりの規格・数量から変更した木材の提供を依頼する場合がある。

表2 各部材の概要

材種	募集枠 (予定)	募集口数 (最大予定数量)	仕様・強度等
構造用製材	35者程度	190口 (材積換算 1900 m <sup>3</sup> )	下記のJAS規格(機械等級区分構造用製材)を標準とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スギ: E70以上(一部E50以上)</li> <li>・ヒノキ、カラマツ、ヒバ: E90以上</li> <li>・アカマツ他: E110以上</li> <li>・含水率 SD15またはSD20</li> </ul> 下記のJAS規格(目視等級区分構造用製材)については、詳細な仕様・強度について別途協議のうえ、提供可能とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スギ: 甲種2級以上</li> <li>・ヒノキ: 甲種3級以上</li> <li>・アカマツ: 甲種1級</li> <li>・含水率 SD15またはSD20</li> </ul>
CLT	5者程度	35口 (面積換算 7000 m <sup>2</sup> )	下記を目安とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・JAS規格</li> <li>・3層3プライ程度</li> </ul>

※募集枠は棟単位の応募状況及び各部材の応募状況により前後する場合がある。

※構造用製材の募集口数は、CLTの応募状況により変動する場合がある。

※個々の提供木材の寸法・仕様・強度等の詳細は、事業協力者と個別に協議して決定する。